



修

竹

ここでもしかり筆を立てて引に続ける

引

ここでもしかり筆を立てて
筆先の小ネ
を使之次に
続ける

丸味のある「一」

王羲之(書聖と呼ばれている)

「蘭亭序」「集字聖教序」

「興福寺断碑」から

から字を集めて、倣書
(背臨)で書いています

修竹薰風を引く

竹の林から夏の涼しい風が吹く。

(韋安石の詩)